臺灣日日新報

本日八頁

發行所 臺北市榮町 臺灣日日新報社

御用の節は電話二八六八番の伊東臺灣廣告社へ

廢物ヨリ生レタル古鐵ウエス商
一葉商店

福記商行

臺北市建成町一丁目二九番地
池澤石鹸製造所
電話二二四七番

履物製造大卸
各種下駄類
ゴム底草履
板底草履
スゞヤ製作所

謹賀新年

北投
御旅館
御料理
八勝園
北投溫泉 電話一一六番

北投
御旅館
御食所
みよし野館
電話六五番

改築落成
御旅館
松濤園
北投溫泉 電話三〇番
用材は全部阿里山檜
廣間には最新式の舞臺裝置

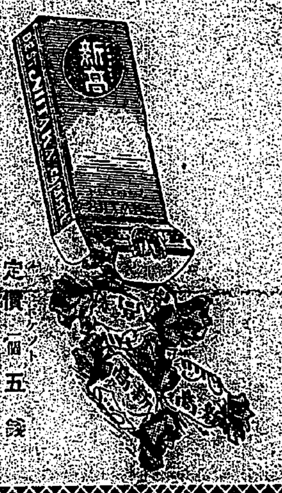
御旅館
御料理
吟松庵
北投溫泉 電話六三番

御旅館
やまと
北投溫泉 電話三六番

御旅館
御料理
ひようたんや
北投溫泉噴水前 電話一二〇番

北投檢番
北投料理屋組合
北投庄北投 電話一〇六番

北投庄役場
庄長 桐村純一
助役 陳清地
會計役 洪金火



新高は世界のキャラメル界を味へ進めご號令しました
▲發賣と同時に註文殺到▼

商標と意匠は特許許可であります

定價一個五錢

室內設計
裝飾圖案
室內裝飾品商
毛織敷物類
西洋家具
電燈器具

臺北市榮町二丁目十一番地
横山商店臺北支店
横山商店圖案設計部
電話長七二番

臺北市末廣町二丁目三番地
日星商事株式會社

公共團體の貸出に應ず
社員招聘
常磐生命臺灣支部

古亭町二二五
日東鑛業株式會社
電話二一四八番

高雄海員友信會

若き目の華やかさ

クラブビシン

便利白粉・白色 肌色 正價三十錢

大阪商船 基隆出帆

近海郵船 基隆出帆

運動具の御用は臺日運動具へ

價廉ナルモ貴人ノ前ニ恥ヂズ滋養ニシテ美味老幼ニ喜バレ久シキモ變味ノ憂ナキ菓子ナリ

一本一錢タバコ菓子

東京四谷三光町
製造元 山菱食品株式會社
デパート有名菓子店タバコ店ニ有リ

臺北市京町三丁目
越智支店

明けまして御目出度う

本年も不相變御引立を御願ひ致します

新春最初の安値を以て値段と云ひ柄と云ひ決して內地に劣らぬ最新柄流行品の初荷を豐富に取揃へ新年の御禮の意味で格別の勉強と努力を以て明日より初荷の新品新柄を賣出しますから倍舊の御引立を願ひます

市內呉服店聯合 いろは順

臺北市榮町 近江屋呉服店
臺北市兒玉町 大木呉服店
臺北市榮町 高田呉服店
臺北市本町 丸山呉服店
臺北市榮町、京町 松井呉服店
臺北市本町 福田呉服店
臺北市京町 藤井呉服店

ライオン歯磨

幼い時からライオン歯磨

賀　正

今年も元氣で樂しく朗かに

LION TOOTH PASTE
KOBAYASHI & CO TOKYO
MADE IN JAPAN

本舗 株式會社小林商店
東京・大阪・名古屋

山形聯隊の入城と同時に 錦州に安民の布告を發す
本庄司令官の名をもつて

（錦州二日發聯合）嘉村旅團の主力山形聯隊は本日午後二時錦州入城と同時に本庄司令官の名を以つて安民の布告を市中隈なく貼り出し直ちに治安維持に就いた

我軍の入城で蘇生の思ひ
錦州住民日章旗を揭げて喜ぶ

【錦州三日發電通】錦州に入城した嘉村旅團は支那兵營及び飛行場を占據し軍規整然錦州城内外の治安維持に當つてゐる錦州市民は匪賊に等しき支那軍憲の厭制に惱まされ殊に撤退に際し掠奪を恣にしたので我軍の入城に依つて蘇生の思ひで各戶に日章旗を揭げて我軍を歡迎してゐる

○○師團司令部も錦州へ

【溝帮子三日發電通至急報】嘉村、依田の兩旅團先頭部隊は豫定の如く三日早朝錦州に入城したので第○○師團司令部は午前六時五十分溝帮子を出發一路錦州に向つた

三日朝雙陽甸を發し 依田旅團錦州市外へ到著

【溝帮子三日發電通】雙陽甸を午前六時五十分出發した依田旅團は列車にて錦州附近まで前進したが鐵橋の一部が破壞され居るので雙陽甸より鐵道修理班來著し修理を行ひ之がため多少時間がかかり午前九時錦州市外に到著した

陽光を拜しつつ威風堂々 嘉村旅團主力錦州入城

【奉天三日發電通至急報】雙陽甸にて一泊隊伍を整へた嘉村旅團主力部隊は依田旅團の先鋒と共に三日黎明行動を開始し午前七時東天より差昇る陽光を拜しつつ威風堂々錦州[illegible]城に入城した

お始めての新春を迎へさせられる

順宮厚子內親王殿下（宮內省御貸下）

室師團長以下の主力 三日午前十時錦州へ入城

（溝帮子三日發電通）○○師團室師團長以下主力は三日午前十時錦州に入城した

正午までに到著の豫定

【溝帮子三日發電通】溝帮子に於ける○○より非公式發表する所に依れば錦州の前進大隊は早朝より行動を開始し一部は裝甲列車、又依田少將の率ゆる部隊は列車にて錦州に入るする一方雙陽甸に一泊した嘉村旅團は徒步にて錦州に入城した後○○師團司令部は溝帮子を午前七時發遲くも正午までに錦州に入る豫定である

赫々たる武勳を立てゝ 多門師團原地へ歸還開始
最後の目標錦州討伐も完了したので

（溝帮子三日發電通至急報）滿洲事變勃發以來各所を轉戰、赫々たる武勳を立て此處に最後の目標錦州討伐を完了し張學良勢力を完全に關內に驅逐せる多門○師團管下の各隊は三日歸還の命令發せられ第○○聯隊を眞先に溝帮子より河北驛經由續々原隊に歸還することとなつた

山海關以東敵影なし 多門師團近く遼陽に凱旋
室師團のみ錦州へ殘る

【奉天二日發聯合】山海關以東敵の一兵なく錦州に大部隊は集結の要なしと云ふに軍の意向決定、錦州には室師團（朝鮮）のみ入城、多門師團は當分溝帮子に留まり遼西空氣一段落を見極め後事を室師團に讓り遼陽に凱旋の筈

溝帮子と錦州に 我飛行場を設置
地上勤務員五十名準備のため兩地へ向ふ
近く偵察○隊を移駐

【奉天二日發電通】溝帮子錦州陷落に依り關東軍航空隊は兩地に飛行場を設置するに決し二日午後地上勤務員五十名は兩地に向つた近く○○○にある偵察○隊が兩地に移駐する筈

五龍背に匪賊現れ 電信電話を切斷
我軍と交戰中

【奉天二日發聯合】本月午後八時すぎ又復安奉線五龍背一帶に多數の匪賊襲來し來たり電信電話を切斷され居留民の安否氣遣れてゐる急報に接し守備隊出動目下匪賊と交戰中、匪賊は更に鳳凰城驛附近の形勢あり同驛一帶警戒中

敵情偵察の我機 敵兵のため燒却さる
平壤飛行隊の小野田軍曹、小川伍長搭乘
兩勇士の死體は尚不明

【奉天二日發電通】二十日午後二[illegible]時平壤飛行隊の[illegible]小野田軍曹、小川伍長の[illegible]ついては我軍において[illegible]中[illegible]されてゐる[illegible]を發見した[illegible]兩勇士の死體は[illegible]

省政府と邊防軍公署 灤州へ移動を終る

【天津三日發電通】遼寧省政府と東北邊防軍司令長官公署は灤州に移動を終つた

匪賊滿鐵社宅を燒拂ひ 電柱十本をなぎ倒す

【奉天三日發電通】安奉線高麗門及び連山關守備隊管內の[illegible]を中心に匪賊が襲來し[illegible]依つて三日午前五時[illegible]され六時[illegible]鐵路保線社宅一戶燒き拂はれ電柱[illegible]た兵匪の[illegible]は我が裝甲列車[illegible]四十分より[illegible]したが[illegible]十本は燒倒された

交戰二時間にして 我軍匪賊を擊退す
石頭城方面へ潰走

【奉天三日發聯合】昨夜八時鳳凰城[illegible]一帶を襲つた徐文海の率ゆる匪賊五百は連山關から出動した裝甲列車の猛攻撃をうけ交戰二時間後多大の損害を被り東方山地石頭城方面に潰走した我軍追擊を繼續中

盤山柳帮子の戰で 第十九旅殆ど全滅
負傷兵は二十臺の列車で關內へ輸送

【天津三日發電通】盤山溝帮子方面の激戰で第十九旅は殆ど全滅、別動隊の援護で殘存部隊は辛うじて錦州に退却した二日錦州より負傷兵約一千名二十臺の列車に分乘關內に輸送して來た

裝甲列車錦州著

【溝帮子三日發電通】我が裝甲列車は午前九時錦州に到著した

○○師團司令部 三日溝帮子發

【溝帮子二日發電通】二日前進する豫定であつた○○師團司令部は同夜は溝帮子に宿泊三日早朝出發することとなつた、先發隊は二日夜は行動をなさず雙陽甸に一泊する

○○師團司令部 溝帮子へ到著

【溝帮子二日發電通】第○○師團々下の○○旅團は二日午後四時三十分溝帮子發同五時石山站に到著同司令部は五時三十分溝帮子に到著した、尚嘉村旅團先發隊は午後四時三十分錦州の東、雙陽甸に到著、同地を占據した、尚裝甲列車は二日夜中に錦州に到著の豫定である

鳳凰城の馬賊 滿鐵破壞を企つ
守備隊と交戰中

【奉天二日發電通】二日午後八時五十分頃安奉線鳳凰城驛の東方に大集團の馬賊襲來し滿鐵線の破壞を企てたので同地守備隊は目下之と交戰中であるが匪賊は砲を有し人數二千の有力なものらしい因之が爲め奉天安東間の電信電話線切斷され不通となつた

錦州の一番乘り
野田、山田兩中尉指揮の
三十名の騎兵隊

【奉天三日發電通】二日錦西村旅隊の一部が錦州に入城したが一番乘は第○○○隊の野田中尉及び山田中尉の指揮する三十名の騎兵隊に依つて行はれたものである

板橋子に 匪賊現はる
高柳小隊と交戰中

【奉天二日發電通】二日午後九時板橋子に約十名の匪賊現はれ我が高柳小隊と交戰中[illegible]

高麗門へ馬賊

【京城二日發電通】二日午後四時頃安奉線高麗門附近に馬賊現はれ電線、電話線を切斷したとの急報に安東から鐵道守備隊○○名を同地に急派した、同鐵道には被害なき模樣である

外國武官北平歸著

【北平三日發電通】錦州に出張してゐた英米佛伊各國武官は二日午後十時北平に歸著した

飛行場適地を發見

【溝帮子三日發聯合】關東軍飛行隊では前進根據地として飛行場適地を物色中の所恰好の地點を發見したので近日中飛行隊を移動せしめる

正月氣分を乘せて 大和丸入港
石橋代議士歸臺

【基隆電話】郵船大和丸が三日午後二時初荷三千噸を積んで入港した、知名者は前鐵相秘書官石橋政[illegible]、[illegible]帝糖社長松方正熊、三五公司七[illegible]、[illegible]、臺北瓦斯社長[illegible]、その他京大理學部長西內貞吉氏、その他で何れも正月らしい[illegible]よさを見せてゐた、因みに石橋氏は約二十日間當地に滯在中、臺南を旅行すると

宜蘭の出初式
五日午前八時から

【宜蘭電話】宜蘭街の消防出初式は五日午前八時より公館前にて行はれる、[illegible]東及び蘇澳は各四日に催される筈

建功神社の元始祭

建功神社に於ける三日の元始祭は午前八時より同社殿にて莊嚴に執行された、木下長官始め文官總代[illegible]、武官總代岸[illegible]大尉、民間總代松尾[illegible]氏その他官民約七十名の參拜があつた

人事

▲松方正熊氏（帝糖社長）三日來臺（鐵道ホテル）

▲津田[illegible]彥氏（三五公司支配人）三日來臺（鐵道ホテル）

▲石橋政氏（代議士）三日來臺（鐵道ホテル）

▲[illegible]三氏（資生堂社長）三日來臺（鐵道ホテル）

▲關口[illegible]次氏（神戶汽船取締役）三日來臺（吾妻）

▲飛田[illegible]氏（神戶市會議員）三日來臺（鐵道ホテル）

▲西內貞吉氏（京大理學部長）三日來臺（鐵道ホテル）

湯地司令官 轉任か
後任は後藤少將說有力

【馬公特電三日發】名司令官として內外の敬慕を一身に集めてゐた要港部司令官湯地中將は近く中央部に榮轉の噂が濃厚であつたが[illegible]は豫定の通り實現すべくその後任に就いての種々取沙汰されてゐる中でも後藤少將は最も有力視されてゐる

聖上御親祭のもとに 元始祭の御儀行はせらる
三日宮中賢所にて

【東京三日發電通】新年天皇陛下には[illegible]遊ばされる元始祭の儀は、[illegible]漲る三日宮中賢所三殿で行はせられた、この日朝まだき既に神域の御舖設整ひ、午前九時には式部官著席して[illegible]掌典[illegible]を奉仕〔神樂歌終〕ると九條掌典長[illegible]しく祝詞を奏し奉る賢所參集所に御參集の秩父宮、高松宮各皇族殿下を始め奉り東郷、山本大勳位、犬養首相以下各國務大臣等、親任官以上は大禮服正裝にて定位に進み祭所、御儀御開始を待ち奉ると、天皇陛下には古雅な黃櫨染の御袍を召され御笏を正し給うて綾綺殿を出御、賢所御拜の座に著御、玉串を奠せられて玉音いとも[illegible]に、御告文を奏せられて御拜[illegible]同樣皇靈殿神殿に及ばせ給ひて[illegible]首初めての御親祭は同十一時[illegible]とどこほりなく御終了陛下入御あらせられた引續き參列の各〔皇族殿下〕並に諸員の拜禮があり正午より午後一時迄、神佛各宗派管長伯子男爵、一時より同二時迄は親任官同待遇官に夫々三殿の參拜を差し許された

臺灣神社の 元始祭
總督、軍司令官參列
嚴かに執行さる

臺灣神社に於ける元始祭は三日午前八時より同社殿に於て莊嚴に執行式したが式中太田總督は[illegible]小林秘書官を隨へ[illegible]軍司令官は原田副官を木下總務長官は川村秘書官を隨へ夫々參拜[illegible]した引續き[illegible]長官內[illegible]、[illegible]、[illegible]局長、[illegible]官、小栗、井上、池田、殖田、中瀨各局長、金子地方法院長、武藤同檢察官長、倉岡臺北醫院長、平山臺北州知事、井出、小山兩技師、[illegible]、三宅遞信部長、石川州內務部長、切田、谷本、[illegible]各[illegible]長等文武官を始め民間側では[illegible]、小松吉久、古賀三千人、陳天來、黃玉對等官民百四十餘名の參拜者あり式後神酒御供物の賜與があつた

◇……シナチク……◇

滿洲の[illegible]は[illegible]むほどの寸暇もなく多門師團や嘉村旅團の先發隊の如き元日の朝溝帮子を出發、同日夕刻錦州を東に距る二里の小凌河の左岸に到著、翌天に野營して大事をとり、二日朝悠々と錦州へ入城した、日露の役に旅順城が元旦であつたのと思ひ比べて天祐と言ふべき歷史的事實であらう、何れにしても錦州入城が河原山を見ずに平穩裡に行はれたことは勿怪の幸ひで、對外關係も好いし祝福すべきことである▲明大CB一回戰を見入つて乃た[illegible]司令官曰く「矢張り學生は元氣が宜しい、あの若さ元氣さで勝つのだ一定の覺悟を持つてゐる[illegible]人とはどうしても違ふ樣だナ」と學生チームの監督としては一寸切さうな元氣振りに眼を細くしてゐた▲臺灣の正月も流石に色々な挨拶を受けて來ただけに微醺を帶びしひどく醉つ拂つて「正月氣分」を露骨にさらけ出してゐる樣なのは餘り多くないやうだ、[illegible]の試練を經て來てゐるだけに數年前とは樣相も餘つ程違つて來てゐる。

謹賀新年

羽獅子印

各種印刷用インキ

東洋インキ製造株式會社

東京市京橋區南鍛治町十六十七番地

出張所　大阪　上海

臺灣代理店　臺灣日日新報社販賣課

恭賀新年

臺南市本町二丁目 東京堂時計店 電話六七一番

臺南市錦町二丁目 エビシ堂 橋本勇吉 電話一〇二九番

臺南市本町三丁目 豐田琺瑯器店 電話三一七番

臺南市[illegible]町二丁目 今林商行 電話六六二番

臺南市錦町二丁目 製造販賣 藤本長平 電話二三三番

臺南市錦町一丁目 製造販賣 市來幸兵衛 電話六七八番

臺南市港町二丁目 製造販賣 前田龜太郎 電話八〇〇番

臺南市港町一丁目 商 永戸支店 電略（ナト）

臺南市錦町三丁目 和洋雜貨商 櫻井商店 電話三八六番

臺南市錦町三丁目 喫茶と はんちう 不二屋 坂部小一郎

臺南市錦町二丁目（本局前） 大阪朝日新聞 大阪毎日新聞 全島諸新聞 取扱所 萬伸社支店 電話九三〇番

臺南市錦町二丁目 寫眞は アサヒ電氣寫眞館

臺南 眼鏡製作 古玩商 桐右馬太 電話五二八番

臺南市錦町三丁目 長岡自轉車商會 電話七五三番

臺南市大宮町 山吉金物店 電話四八三番

臺南市錦町一丁目 各種印章 ゴム印 梅原克己堂 電話八三八番

臺南市錦町三丁目 ㊉丸は呉服店 丸は食堂部 電話一〇六・八五〇番

寫眞器 貴金屬 時計 光榮堂 臺南市錦町三丁目二百二十四番地

西洋御料理 御支度所 臺南驛前 ホーライ 電話四九八番

臺南市錦町三丁目 喫茶 西洋料理 カフエー すみれ 電話二七〇番

臺南市本町四丁目 西洋御料理 臺灣樓 電話六三三番

臺南市本町四丁目 西洋御料理 滋養軒 電話三三三番

臺南市本町三丁目 菓子と喫茶 トミヤ 電話九七三番

公會堂內 御料理 柳下 電話五七二番

臺南市本町二丁目六七 生そば 更科 電話二七八番

臺南市錦町 生そば お多福 電話四九五番

臺南市本町四丁目 御料理 三吉野 電話五二二番

臺南市壽町二（媽祖廟埕右側） 御料理 南美樓 電話八六一番

臺南 御料理 鶯 電話四〇九番

横光吉規 石井龍猪 坂口主税

菱村彦十郎

若槻道隆 臺南

臺南 高橋隆 小形留吉 松平治郎吉 廣松良臣 田中友二郎

臺灣總督府評議會員 荒巻鐵之助

臺灣總督府評議會員 藤野幹

野村精策 臺南

臺南市港町二丁目 高橋組 高橋順三郎 電話四五一番

丸三組 遠藤彦四郎

臺南市錦町三ノ一三九 呉服太物 櫻楷社 電話四六七番

㊎ 臺南市本町三丁目 合資會社 丸全呉服店 電話二四四番

臺南 寺川印刷所 寺川喜三郎 電話三五八番

臺南市錦町三丁目（電話三三八番） 橋本紙店

臺南市大宮町二丁目 橋本紙店印刷部

臺南市本町二丁目 機械工具 其他金物商 吉田商店 電話五六三番

臺南市白金町四丁目六六 諸機械製作 設計鑄造 火造品 明石鐵工場 電話七六六番

臺南市西門町四丁目 角屋染物店

臺南州協議會員

（いろは順）

梁道 劉明哲 越智寅一 和田二三松 鹿沼留吉 勝又獎 高城萬七 田邊虎三郎 中川蕃 佐々木紀綱 佐藤覺一 辛西淮 石秀芳

臺南市協議會員

（いろは順）

林方一 千葉才二 劉揚名 川上八百藏 川崎二三 高島鈴三郎 谷口實行 曾景星 中島貫一 永野種伊 村上玉吉 栗山新造 小出平左衛門 阿波種次郎 許清江

臺南醫師會有志

（いろは順）

井田醫院 伊藤醫院 博愛醫院 千葉醫院 尾崎醫院 同春醫院 臺南肛門醫院 栗原醫院 庄司醫院 重松醫院

臺南市大宮町四丁目 臺灣總督府評議會員 辯護士 津田毅一 電話二二六番

田村武七 臺南

臺南市大宮町四丁目八二番地 辯護士 佐藤三之助 電話一二四番

臺南市幸町二ノ四四 電話二二〇番 辯護士 井戸謙 洪西岐

臺南市大宮町四ノ九 辯護士 有水定次郎 電話八六二番

臺南市大宮町三ノ三四（電話四五九番） 辯護士 高橋常吉 辯護士 安里積千代

臺南市大宮町四丁目法院前 辯護士 米山義員

臺南市大正町二ノ二六 特許商標出願代理局 辯理士 飯岡隆 支部 高雄市堀江町五ノ三

川村彌永吉 臺南

白石保二 臺南

臺南市白金町一丁目一四番地 辯護士 王清風 電話長四八五番

臺南市大宮町三丁目二六 辯護士法學士 沈榮 電話二八九番 出張所 嘉義市總爺一〇五番地

公證人 余繩章

日本生命保險株式會社臺南代理店
日本火災保險株式會社臺南代理店
神戸海上運送火災保險株式會社南部代理店

味の素 ライオン齒磨 ライオン石鹸 レート化粧品 クラブ化粧品 有名化粧品各種
味の素 ライオン石鹸 食料品罐詰
味の素 エビスビール 食料品罐詰

代理店

臺南市本町三丁目 越智商店 電話二八番 長三九番 振替臺灣三九番

臺北市京町一丁目 越智支店 電話一〇〇二番 長一〇〇三番 振替臺灣一〇〇三番

高雄市新濱町一丁目 越智支店 電話長三一番 振替臺灣一三一番

臺南市港町一丁目 諸機械類製作 兵庫縣別府港 多木肥料製品 一手販賣店 越智鐵工所 越智肥料部 電話一三一、一〇九五、〇六、四〇〇番

臺南州購買組合

鳳山街 臺灣鳳梨罐詰株式會社

臺南州食堂會員一同

日本勸業銀行臺南支店

產業組合臺南六日會

信用組合臺南友信會
信用組合臺南興信社
臺南信用組合
臺南庶民信用組合
臺南建築組合
臺南冷藏製氷組合

臺南貸座敷組合 電話九八二番

御料理 臺南市西門町二丁目 一筆 電話三四七番

臺南州廳前 臺南州自動車協會

臺南市港町 臺南州自動車講習所

臺南商友會

（いろは順）

西村商會 越智商店 宅商會 辰馬商會 矢頭商店 近藤商會

大日本鹽業株式會社 本社 東京市麴町區八重洲町一丁目 支店及出張所（[illegible]）

臺南宿屋組合

御料理 臺南 小梅園 電話二二七番

臺南劇場 宮古座 松竹日活映畫特約上映 電話一三〇、四一五六番

臺南土木建築請負業組合 電話四二六番

同 嘉義支部 電話二三五番

寫眞　花蓮港を擔ふ人々（官界）（上右）花蓮港分屯大隊廣田大隊長（上左）和田鐵道部出張所長（下右）宮崎花蓮港街長（下左）安田花蓮港郵便局長（中央）淺野廳長

下段は美しく竣成したモダン花蓮港驛

迎春の感

花蓮港廳長　淺野安吉

正月を迎へたのは京都で二十一回、東京で五回、臺北で十一回、デンマークの首都コーペンハーゲンで一回、高雄で一回、それから今度花蓮港で一回といふ勘定になる。この前後の十九日に書く、見かへつてゐるかも知れない。

◇

暮から春へかけての情趣はところによつて大變ちがふ。この地の迎春感も己の十九日から欧想像がつくやうだ。私はこの地の自然に深い魅惑を覺える。この地で嬉しいことは冬季降雨の鬱陶なことである。大抵は夜降つて朝晴れる雨の爲りに落ちついた閑寂な街々に冬を浮ほぐあたたかい日が照り渡る新春の時情は格別であらう。それにこの地では西の空に八千尺の高峰が九十度にちかい內山で立ち塞がり、東の大わたに向つて輝かしい日像を開く。寂しくて明るい底力のある生氣が横溢し新鮮するであらう。

◇

そぞろに西人の春の心癖をうかがはれるのではないかと思ふ。充分に下腹に力を籠めて聲高らかに春の謠でもうたつてみ度い（六、一二、一九）

希望に輝く青年花蓮港

根氣と元氣で行かう

街長　宮崎末彦

[illegible]に昭和壬申の新春を迎へ恭しく年頭の御祝を拜申し恭しく御納むる次第である。我等花蓮港民としては正に文化維新實行第一年だ言はずして居民一同自ら期すべきものがある。行人口を覗けば花蓮港の瀕きを示す。しかし我々はこれを嘲笑とは聞きたくない。逝晨迷た青年花蓮港に對する忍耐的苦鬪であつて東部臺灣の開拓、新興花蓮港の潑溂吹と叫びたい。青年花蓮港には將來にかける海陸兩路の完成とそれに伴ふする方策を遂行する意氣と總画とは五臨に瀕つてゐる。其の進むべき途、施すべき策とは專業にだ忘れたことはない。此の希望を藏して迎へた新年だ。元氣と根氣で希望の實現に努力したい。

やつて來い花蓮港へ

安田仙八

東の方を見下ろせば
どよみ延々しき大波の
逆卷き寄する太平洋
その名もかんばし花蓮港

花岡山下の小學校の校庭では、國際運動が、朗かに、樂けに、高らかに「その名もかんばし花蓮港」と謳つて小さな日の丸の國旗を振つて飛び跳ねて居る。冬はエメラルド、山は紫、海は紺碧、小春日の午前は甚だのどかにて候。

○

其のりんくわんの美に於て、其の眺勝の位置を占むる點に於て、延喜第一だと校長さん得意の女學校寄宿舍からは、渡邊よしたか作する處の花蓮港小唄が、ピアノのリズムと共に開放された窓から流れて來る。

三十一里の臨海道路
バスの眺めは世界に稀よ
チエイト谺り追アのタロコ峽

合唱だけではなさそうだ。快活な、ピチ／＼した娘さん連は、手と足と口とで踊らなければたまらないといふ風景だ。驛舍からは兵隊さんが力一ぱいにラッパを吹いて、街のモーターサイレンは山と海とにお迎だよと合だ。と呼びかける。

○

クロトンの金の葉は、大王椰子の菜籃で「花蓮港は日照時が永いでせう」と太平洋にささやいて居る。

やつて來い、花蓮港は臺灣第一の明るい、朗らかな、美しい、都會だ。

とても「景氣のいい話」

孫六式はまどろつこい

とても景氣のいい話だなんて資本主義社會にあつて哄まるかい。もういい加減「資本主義」といふ化け物はこの世の中から引こまないと景氣のいい話は秘切れだ。などとプロレタリア經濟學者は頻に資本主義末期の世界恐慌來を說いてゐるが、それはそれとして生馬の眼でも拔きとらうといふ鄕商人の社會には時折、とても素晴らしい景氣のいい話が持ちあがる。どもかく年あらたまつた一九三二年の年頭だ。資本主義社會がどうあらうとそんな理屈つぽい恐慌話は拔きにして、ひとつ、とても景氣のいい話でもして昭和七年の新春を祝はうではないか。

◇

ところで、景氣のいい話といふやつはこの世知辛い世の中にはざうザラにころがつてゐるものではない。それこそ「千三つ屋」のぺてん師か、一ぱし目先きの利く逃山か、または棚ぼた式の幸運者でないととても景氣のいい話は持ちあはさない。

目先きの利く連中で思ひ出したが去年例の各務鎌吉君がワシントンに開かれた萬國商業會議所總會に出席した時のこと、燃えさしの焚き火がパッと明るくなるやうに米國のドイツに對する戰債モラトリアム提案で世界中がちよつと「フーヴァー景氣」で色めいたことがあつた。

その時の景氣のいい話ではちと古臭いが、各務君と相前後して歸朝した木村毅君が「これは絶對に口外無用だよ」と聲を低めて話してくれた珍談だからこの際公開しておかう。

◇

なにしろその道にかけては家の者の敏吉君、渡米と同時にモラトリアム提案の思ひをかぎつけて當時ガタ落ちの株を買占めたもんだ。

ところが案に違はずフーヴァー提案で世界中がぱつと景氣かついた。そしてガタ落ちの株が一時に値上りをしたところを、手際よく賣拂ひ、じこたま儲けてしまつたといふ話だが、惜しいのは、各務君の鮮かな儲け振りを見せられた同行の面々で「よし、吾輩も儲けやう」てんで、株を買占めた時はもう手遲れで、かなりひどい目に遭つたといふ。

この話を聞いた木村毅か、例のイデオロギー張りの文筆でアメリカの新聞に「日本の三吾各務君の景氣のいい話」を素ッ破拔いたので、木村君の船賃を負けてやつた郵船會社がかん／＼に腹を立て、木村君を呼びつけてその背徳行爲を責めたといふ話は、素ッ破拔きついでだから話しておく。

◇

フーヴァー景氣では日本でもあちらこちらに「景氣のいい話」をこしらへたが、そのうちでもつとも地道に儲けて四百八吉の小栗家を大ましたのは內田嘉吉氏の日本無線電信會社であらう。それはフーヴァー景氣で無線電信が世界中を無茶苦茶に驅け廻つたのがそもそもの儲けの走りとなり、お次が滿洲事變の突發それに伴ふ國際聯盟の動きなどの好材料で、うんと儲かり、また今年までそのぬくもりが醒めさうにもないさうだ。これなどが棚ぼた式の景氣のいい話の大なるものであらう。

「一際もの師」的の儲けをしたのに濱口前首相の隨感錄を發行した三省堂があるが、これは多少佛さまが臭くなるから、飛び越しの縁起をかついで御免しやう。

◇

こんどは方面を變へて今年「とても景氣のいい話」を持合はしてゐる人間を探してみたところ、あるにはあつたが、それは悲しいかな、アメリカの話だつた。

しかし、聞いても話しか景氣のいいことだし、それに參考にもなることだから話すことにする。

それは、今年の暮に牢獄を出る名代の錠前切り犯人に二十萬ドルの大金がぶら下つてゐるといふ飛切り景氣のいい話なんだ。二十萬ドルといへば、日本貨に換算すると大枚四十萬圓だ。豚いちやいけない。

この幸運兒の錠前切りは、どんな頑丈などんな巧妙な錠前でも他愛なく破壞するといふ凄腕の泥棒で、しば／＼警察當局を悩ましつづけたが、たうとう捕まつて牢獄へぶちこまれた。

◇

牢獄につながれたこの錠前切りの犯人、獄舍のつれづれに錠前切りの凄腕を睨けて「切れない錠前」をこしらへてみた。なにしろその道の玄人が蘊蓄を盡しただけあつて錠前會社がいくらひねくつて見てもいつかな切れない。そこでその錠前會社が、これなら製作者の犯人以上の腕の錠前切り犯人が出現しない限り「安全第一」の錠前だと、すつかり惚れこみ專賣特許の權利をゆづりうけその代價として二十萬ドルを贈つたといふ譯だ。これなどは果報は寢て待てといふか、果報は牢屋にといふのだらう、そこらあたりに志願者はないか。

◇

さて、いよいよ自分の景氣のいい話の主人公となるのには大抵のことではなれないもので、日本人で太平洋橫斷飛行に成功すると、まだ五萬圓の懸賞金は貰へるが、それでは航空研究所の命がどうやら危いし、郵便局から銀行へと小金を持ち運つて利殖を太らす行孫六式の金儲け法もあるが、それではあまりまどろつこく、あまりに地道で面白くないし、などと考へて來ると、景氣のいい話どころか世の中が急に暗れなくなつて來てしかたがない。

で、ひとつ奇想天外の儲け話を考へてみたが、誰かやつてみる希望者はないか

◇

それは、資本さへすれば世の文明開化とともにだんだん歩くことの嫌ひになつた都會人が百人が百人とも利用すること疑ひなしといふ移動道路會社の設立だ。

たとへば、東京市中の街路といふ街路に移動道路――エスカレーターを敷設してみたまへ、行倒無限を問はず、帝都三百萬市民は一人殘らずこの移動道路を利用して自宅からちよいとエスカレーターに飛び乘り、戀人とキッスしながら、戀愛の話に夢中になりながらするすると目的地へ着けやうといふ寸法だ。

「ここは陸軍省前」などと云はれなくとも、エスカレーターが動いてゐるのだからその前に來ればさッさと下りられる調法さは利用者百パーセント、利益また百パーセントで、またたく間に會社關係者は百萬長者になること請合ひ、これこそ、とても景氣のいい話ではないか。

寫眞　（上段）は山をひらき繞らす玉垣いと清楚に神々しく花蓮港街民の氏神樣として鎮座するの花蓮港神社（下段）は新興花蓮港を擔ふ人々（民間）（上右）實業界の花形小川浩氏（上左）同新進の吉村佐平氏（下右）財界の元老佐藤恒之進氏（下左）六十八歲で事業界の現役は乃公獨りの原吉太郎氏（中央）ニコ／＼父さんぶりの梅野清太氏

臺灣句日誌

東京　巖谷小波

十一月四日　基隆上陸
小春とて珍ら日に沿む港かな
同　日　臺北に入りても八十度を超ゆ
南國は律儀過ぎたり小六月
同　五日　臺灣神社參詣七五三祝日
袴着や晴着やこの大前に
同　十六日　臺北新公園所見
霜知らぬ垣コロトンに狎てけり
同　日　臺北市內途上
水牛の脚頭を撫づる尾花かな
同　八日　即興
南國は酸いが甘き蜜柑かな
同　十九日　基隆旭ケ丘公園所見
短日の牽牛を白頭公の叱しけり
同　二十日　花蓮港上陸
冬の海水牛色に曇りけり
初冬や端艇に浴ぶる潮飛沫
同　日　臺東線所見
採色の崖や磧や冬の川
甘蔗畑や彼の蕃人が蕃飾
小春日の山根に白し蕃民村
同　日　臺東の夜
臺東は蚊が飛んで小六月
蕃社の月に高鳴く蝦虎哉
同　二十一日　臺東附近蕃社訪問
蕃童は赤いを好み佛桑華
頭目は垣を繞らし菊の花
菊なんど植ゑ覺えけり平地蕃
釣橋は蕃社に通じ秋の川
蕃花や茄子の窓は駐在所
装ひの蕃婦も菊の日和かな
初鍬や子は手作りの竹の弓
同　廿二日　里壠の茶亭にて
團子啜つて路する小春の渇かな
同　二十三日　花蓮港にて
冬の海今朝も端艇は出ざりけり
同　二十四日　臨海道路驅行
バス飛かず小春の濱の三十里
同　二十五日　高雄壽山に月下ドライブ
地には灯の星敷いて月の港かな
此皆を猿は何して月の海
同　二十六日　澎湖島に至る
よるも島の渡りぬ風の澎湖島
同　二十七日　馬公所見
凩や枯らすべき木もなき島に
凩に吹きたなめぞ島の數
同　日　同所文石書院にて
澎湖の椰子は實らず菊の花
文石の㮈に人なし冬の蝶
同　日　千人塚に詣でて
誰の魂を千人塚の落葉かな
同　二十八日　屏東で刺竹の由來を聴き
玉垣や陵成線に竹の春
同　二十九日　流豆街にて
朝霧と果てなき甘蔗畑かな
同　三十日　嘉義に一泊
何の顏で鳴くかと蕃虎觀きけり
朝寒や阿里山近き市にして

十二月一日　臺南市を訪れて
囀りの白頭公嘆きの猿かな
紅流すいかだかつらや妹が垣
同　二日　臺南より北上の途中
稻筏や子は水牛と飯の蓙
同　三日　臺中市所見
妹が衣濯ぐ小春の小川かな
初冬の新高近き市路かな
同　四日　清水街に立寄る
鬼の名の水の清さや小春風
卿跡を蔡家に訪へば冬の錦
同　五日　新竹に到る
緋のある竹にも春の來たりけり
同　六日　再び臺北に歸り新茶屋に知友と會す
思出の話に夜長忘れけり
同　七日　臺北陣天來氏製茶場を觀る
馥郁とぞろ新花の甑りかな
同日　基隆を辭す
別れと喘きぬテープや小春風

猿　猿　猿

喜多村進

罷りいたしまま、猿オンパレードを展開してみよう。

三猿のこと

關東以北の庚申塚の祠に、われわれは「見ざる」「聞かざる」「言はざる」の、所謂猿の繪馬を屢々見かける。庚申さまは道祖神と連絡あり、道祖神と猿田彥命と繋がつてゐる。つまり大和民族にとつての異人種であつたのだらう。それはとにかく庚申さまには猿がつきものである。その猿の「三猿」の起因は、傳教大師かの天台の「不見不聞不言」の三諦を三猿の形にとり、之を庚申樣に安置したのが濫觴であると言はれてゐるところが後世俳諧師が仲々皮肉な歌を詠じてゐる。

見ず聞かず言はざる三の猿よりも思はざるこそまさるなりけり。

猿丸大夫のこと

三十六歌仙の一人、小倉百人首にも名を連ねてゐる猿丸大夫といふのは勿論本名ではない。彼は元明天皇の御代、京都の田の深草の里に住んでゐた某といふ、名もなき瀬戸物賣りであつたが、性來ただ風流の道で夙に和歌の道に達してゐた。それが世間の評判のみならず、禁裏にまで聞えてゐた位であつた。

ある日のこと、いつものやうに彼は天秤棒をかつぎ「えゝ、かわらけや、かわらけ」とでもどなつて賣りに歩いたことだらう。その頭のことだ無論「瀬戸物」といふ言葉はなかつたから。

禁庭では、殿上人たち、春陽うららかなるままに、蹴鞠の遊びにでも耽つてゐたことだらう。ふと耳にした土器賣の聲。

「ああ、例の歌詠みの土器賣の聲らしい。一度呼び入れて歌でも詠まさうぢやないか」と衆議一決、

「あれを召せ」

と言ふことになり、土器賣はおづおづと入つて來た。

「どうだ土器賣り、おまへは却々の歌詠みといふことだが、何か一つ所望しやうぞ」

「へへ……」

彼は即座に詠んだ。

あかがりも春は越路へかへれかし冬きて足の裏に住むとも

あかがりは、あかぎれのこと、冬の間は足の裏にあかぎれは出來てゐても、春になつたら消えてしまふ。それをあかがりと雁にたとへ、春になると北へ往く雁は、冬の間足乃ち葦の中にゐても春と共に必き越路へ去れといふのである。

このユーモラスな絶妙な詠み振りに、一同はやんやと喝采した。遂に御門に召されて、面が猿に似てゐるところから、猿丸大夫と謂いふと言ひ囃されたのである。

猿橋

日本三奇橋の一、猿橋は甲斐國にある。今はそれと平行して中央線の鐵橋が架かり、車窓から見ると何の奇もないが、交通不便の昔は「川の底千尋にもおよばざるうへに、三十餘丈の此を渡しはべりけり」なんて「四國猿記」の作者が描述してゐる位だから、架橋の苦心は大したものであつたに違ひない。これは人間業では出來ない、恐人間的の工事に依らねばならぬと人人に噂されたところ、そこで傳說が生れる。何でも最初は多くの猿が寄り集つて數珠を繋いで渡つたものだといふのだ「猿橋」といふ名がつけられた原因である。

私はその假假を究證しやうとは思はぬ。傳說は傳說として興い記述である。が、とにかく後代この猿橋の架設した頭領は、日本國中の猿の知らしどもが集り勸進してゐるところを見ると、まんざら猿に因縁のないことはないと思ふ。

猿澤の池

猿澤池は、奈良朝時代のロマンティックな池である。

わきも子が身をなげてしより猿澤の池のつつみやなは悲しき

奈良朝のある帝の御代に仕へてゐた一采女か、いつとなく秋風たち心にもなく忘れられ勝になつた時、采女は悲しみのあまり猿澤の池に身をなげてしまつた。その時帝がきかれて詠まれた歌である。同時に御幸の供奉にゐた柿本人丸も詠んだ。

わきもこがねくたれかみを猿澤の池の玉藻とみるぞかなしき

名高い次の歌である。

今は猿澤の池は猿澤と同じく平凡な池ではあるが、その昔は幽邃な場所で猿なども多く棲り遊んでゐたらしい。ある時、一群の猿が手に手をつなぎて池水にうつる月影を取らうとした所、最後にゐた猿は突然手を放したため、多くの猿が池に沈んで死んだ。その後人呼んで猿澤の池と言つたとか。

猿智慧

四國猿と言つて、四國の猿は形小さいが、押役を致へると非常に能く習ふために、猿廻しは四國猿を重寶する

ところがこの猿にも器用不器用があるもので、器用なものは直ぐに藝が身につくが、不器用猿は教へるあとから、前の藝を忘れ勝ちである。そこで器用な猿を選ぶことが必要となつて來る。その方法はまづ人一人入れる位の戸棚を拵り、戸が閉まると同時に鈴が下りて、內からは再び開けられない仕組にしておく。その戸棚に猿の好物の食物を入れて、猿多き山にゆき、まづ人がその戸棚の內に入りて、いろ／＼と食物を取り出す。猿どもは、その有樣を遠に眺め、人影去ると共にぞろ／＼と戸棚に近付き來り、戸棚に入つて食物を漁るのである。ところが、不器用なる猿は、戸をあけたまま、しきりに食するが、器用なる猿になると、自分は戸棚の中に入り、入口を閉ぢ、ひそかに食するのである。さて食ひ終へて戸の外に出やうとすると、鈴が下りて、內からは開けることが出來ず、遂にかくして器用な猿が捕獲されることになる。猿智慧とはかういふことである。

猿の赤尻

猿の赤尻の口碑は、いろ／＼あると思ふが、私が幼年時代耳にしてゐたのは、次のやうなはなしである。

ある山里に娘一人を抱へて夫婦者が住んでゐた。山里のことで猿が出て來ては、果物や野菜を荒らしてしやうがなかつた。或る時その一匹の猿を捕へていやといふほど撲わたき「今度出て來たら承知しないぞ」といつて放してやつた。

ところが、或日夫婦は山を下りて、里の方へ何かの用足しにゆき、娘一人は留守をして、機を織つてゐた。

夫婦がやがて家に戻つて來た時ふと見ると、その娘の顏が、どうもいつもより赤く見える。留守のうちに、まさか酒を盜み飮みする筈はなしと思つて、つく／＼見ると、娘の樣子はしてゐるが、まさしく娘ではない。そこで、夫婦は矢庭に飛びついて、そのものを捕へたところが、それは大きな猿であつた。

「娘はどうした！」

娘は無殘にも猿に殺され、猿婦をけめられて、柱に縛りつけられてあつた。夫婦は大に怒り、猿を戸の前栽畑につれていつて、その尻を斬つた。それがために血が出て蕎麥の根元に滴り、蕎麥の莖はために赤くなり、同時に、それ以來、猿の尻は赤くなつたといふ。

この面話めいた口碑はいろ／＼な話が混合してゐるやうに思はれるが、山里に殘つてゐる一つの口碑として掲げておく。

女優生活二十年

森律子

周圍の反對と世間の白眼とを押し切つて女優といふ生活に入つてから今年で二十四年になります。

よく世間では女優と云へば何か特別な生活をしてゐる樣に考へてゐますが、多くの女優さんの中には「女優だからかうしなければならない」といふ樣な考へを持つてゐる方もあるやうです。たとへば、ごく卑近な例をあげて見ますと、女優だから殊更に生活を

◇…**華美**にしてみなければならない樣に考へ着物などもとりわけ人目につき易いものを撰んで着てゐるといふ樣な形がありますが、しかし何も女優だからそんなに派手つくりをする必要はありますまい。派手な生活の裏面には必ず何かよからぬ形が伏在してゐるものです。そしてまた女優にはパトロンは附きものの樣に考へてゐますが、勿論女優さん達はよき意味のパトロンは必要です。しかし世間で考へてゐる女優のパトロンは必ずしもよき意味のパトロンではなく物質を對照とし、それから輕蔑と結びつけらるべき性質のもので、真面目の女優にとつてこれ程嫌なものはないと思ひます。女優がパトロンを持たなければ一人前の女優になれないと思ふのは間違ひで、生活を普通にさへしてをれば決してそんないやなパトロンを必要とするものではありません。從つて女優だから生活を派手にして目立たせる必要もありませんし、私は寧ろ家庭の生活としては衣食住共に普通の女性にいたしたいと思ひます。勿論自らの藝術の向上といふものの爲には普通の家庭の人の樣に、子供の心配をしたり、夫の機嫌を氣遣かつたり、今晩のお菜の心配してゐた日には到底駄目で、[illegible]へなければなりませんから、[illegible]はごくおとなしくおだやかな方がよろしいと思ひます。ですから女優として成功し立派に自分の

◇…**藝術**を磨かうと思ふならば結婚してはいけないとは云ひませんが、[illegible]

◇…**激昂**しました。でしたから[illegible]

新春

中河幹子

昭和七年の春となりぬれむよりか街々と祭も光に滿ちて
正月と庭の日向に兒も出て羽根つき遊ぶ三人子らと
父も呼びて親子遊べは何にはなし羽根つくさへにあまた笑ひて
うらうらと元日の日の晴れたるに凧揚るたてておべる飛行機
凧揚のつねより高し仰ぐ空の青き飛び來る飛行機

臺南　潘春源　畫

臺灣產業津梁（三）

小學男女教員躬稼

開實際教育之先路

宮城縣名取郡玉浦小學校。去五年春。合勞男女教員二十七名。經營水田一段。園二畝。茜圃若干。凡堆肥。耕作。播稻。耘草。收刈。脫穀。納米。一切不假諸人。是爲農村實際教育。不特該縣。即全國中。亦無其例。於各方面。大起衝動。該校學童。一般村民。尤如男女青年團。莫不感奮。初年以學童區。除害蟲。農會補助經費。購入和牛一頭。所糞又以學童區除蝗蟲。所得二百五圓中。支出一部購入緬羊二頭。與之共飼堆肥亦成功。女教員。親手施肥。耕之耘之。凡放課後。或休日。輒利用操作。每有所得。川之職員研究。圖書購入費。以助農村財政之不逮云。

農家三正業

播稻養蠶養雞

一致蓄財

岐阜縣安八郡福束村。奬勵播稻。及養鷄養蠶。爲農家三正業。耕地一町以上播稻。二百坪以上栽桑。一段以上種菜。養蠶春夏秋各三枚。養鷄五十隻。雛百隻。全村一律實行。

目下鷄計有二萬一千三百餘隻。養之者四百七十餘人。一年出卵七千八百六十七貫。得一萬五千七百四十餘圓。賴農會。爲之斡旋輸出海外。養者之家不買飼料肥料。汲々儲蓄。方以信用組合爲中心。設三德。旅行。園藝。設講四種貯金。各組織組合。每年三月六日。另新組合員紀念兒女誕生。農家年必一遊附近名區。相與探勝同樂云。

養鷄組合

組合員十名

一戶純益三百圓

奈良縣磯城郡城島村大字忍阪。有養鷄組合。組合長岩田繁太郎氏。善指導經營。成績極佳。加入者雖僅十名。一戶平均純益三百圓。最近一年間。收支如下。飼四千餘隻。出卵三千六百貫。賣得六千四百八十圓。扣除飼料所費。實利約三十圓。組合事業。現在不過有二。一鷄卵共同販賣。一飼料共同購入。每日鷄卵配往大阪市面。凡有六貫內外。鷄糞在本地方。亦賣多少。鷄糞充作家用肥料云。

鷄卵貯藏液

足保半年不壞

一箇費約二厘

宇都宮高等農林學校教授富士省三氏。客冬發明鷄卵貯藏液。此爲實驗。甲乙丙三箇中。甲乙可藏之百八十四日。丙則八十日。蓋以液塗於卵殼面。晒之太陽直射光線。與空中酸素合。成如樹乳膜者。足藏半年以上。卵殼猶堅不壞。配之遂方甚便。一卵費只二厘云。

卵花廢物利用

肥牛肥地

飼豚亦得宜

奈良縣山邊郡針別所、豐原、都介野、福住四村。因製造凍豆腐。致使年出卵花三十餘萬貫。徒成腐敗之物。而爲研究用法。自數年前。乃以飼之肥育牛。相當收效。每年十二月上旬。買入犢牛。翌年二月賣出。例此短期間。得利不少。且卵花經其腹以成糞。向之投資金肥者。經減異常。各村農家之困憊。從爲寬緩。飼牛之人。年多一年。去年計約二百餘頭。豐原村字三谷。或以卵花養豚。成績佳甚云。

奬勵養兎

統一輸出毛皮

照陸軍部等希望

帝國農會。因各地方。熱心養兎。欲乘趣統一邦產兎毛皮習慣。計畫統一品種。及交易改善。客臘初一二兩日。於東京大會會議室。開兎毛皮協議會。農林。陸軍兩省官員。及各府縣農會員。毛皮關係商人等。多數出席。商議輸出品規格統一。暨各產地良種配給等件。究其宗旨以海外市場利用方面變遷必要順應。而設檢查機關。精圖品質向上。國中消費之多者。陸軍省爲最。宜照其生產上希望。並各方面意見。設法指導產地。改良品質。生產配給。將來海州交易。全部照此而行云。

臺北　郭雪湖　畫

臺南　鄭啓東　畫

九十坪地白菜

出三百貫

堆肥之功多

千葉縣海上郡旭町紹戶篤農家伊藤隆太郎氏。初種白菜。九十坪地。例出百貫。此爲研究。試之養豚。多造堆肥。施諸菜園。講究肥料耐久方法。豫防土質乾燥。其間施肥既早。又三四次投藥驅蟲。白菜生機無碍。所出獨多。一躍至三百貫云。

品種佳不佳

收益多差

新舊種大仙胡瓜

大阪農事試驗場。嘗改良胡瓜。名爲大仙胡瓜。昨年獎勵府下一般栽種。一面於該場試驗。與普通種試種。比較其收量。一段各種二千四百本。究竟改良種收六萬一千四百五十六本。普通種收三萬九千一百三十六本。而售之市場。前者得四百六十九圓九十六錢。後者得三百三十二圓五十一錢。委託一般農家栽倍。成績殆無所異云。

香魚放流

一年收數倍

已由試驗入實際

京都府。以琵琶湖。及管內人工孵化兩種香魚（即鮎）放之溪流。昭和五年先全國而行之。翌年獲氷魚（湖中稚鮎）。而放之。據府立水產講習所養殖科所查。三十五漁業組合。放八十九萬三百尾。獲五十萬千八百二十尾。值七萬五百四十二圓。平均一尾長最大八寸。重六兩。究獲所放。五成六分强。而收其利。則六倍强。似此足證其已由試驗時代。而入實際時代。爲重要水產事業云。

茶業界不振對策

亟圖生產優良茶

臺北州　宮永榮治

昭和六年。本島茶業界。因受物價跌次低落。遂至深刻不振。徒使吾人心膽俱寒。然星換物移。茲復迎多望之昭和七年。萬事同風。人物俱慶。回憶昨年。不獨茶業沈淪不振。即社會萬般亦俱見深刻不景氣。物質精神。咸受衰减。偶念及此。不寒而栗者。非只一再。殊如茶業界。尤覺遭遇異常之危機。然此艱難經驗中。而促吾人注意。且幸有一道光明者。爲優良茶嘗受相當歡迎。得以有利授受者。殊快吾人心意。今觀近年世界茶業趨勢。各生產地。因時勢之推移及科學的學理化。在消費地。漸以激烈競爭。是以下等茶之消路。現殆閉塞。然反觀我臺灣茶業之現狀。尤有堪寒心者。即如茶之生產方面。舊態依然。茶園以無肥栽培。且因表土流失。逐年荒廢。故其收穫。亦與年俱減。至于製茶法。亦未脫舊套。生產費之遞減。仍無計及。他如製茶貿易復極複雜。在國際商品之本島唯一貿易茶業。今將陷于退嬰矣。爲是我當業者。須以過去經驗爲基準。樹立新希望。緊張心力。俾得進于新發達途上者。自不得不求于新春也。世界茶市。如此混沌。誠有不可端倪者。然將來之茶業。亟須努力于優良茶之生產。如處于現在不況時。致力于生產優良茶。既不憂消路。而復多獲益。即前如新竹州下之北埔郡。近如臺北州七星。文山等郡。皆致力于生產優良茶故。一般物價雖激落。唯優良茶。則展開于有利。是其左證。要之景氣之良否。常受其波動而推移。古語有云。好況三年。不況三年。蓋物極必反。理勢實然。如處于好況。常思不況。如處不況。勿忘好況。若大處于不況時。須勿[illegible]。[illegible]圖。使一陽來復。不致抱向隅之嘆。然而前事不忘後事之師。觀既去之得失而爲將來之規矩。勿徒拘泥舊慣。而對將來狐疑不然。萎縮退嬰。而失進取振興之力。則于前途。尤堪隱憂也。故希吾臺茶業者。須著目于國際的一千萬圓之產業。而爲之從事者。臥薪嘗膽。常耐艱難困苦。不斷努力。隨時推移。勇往邁進。俾斯業達至有光明之途。是所企圖不已也

曉鷄聲

陳　昌　湖

夜氣沈沈漏未央。司晨性特秉乾剛。一聲聞朱戶兼茅屋。啼徹江村又帝鄉。好似綸音宣世界。咋將逸韻警風霜。憑君奏上扶桑旭。萬里河山浴曙光。

○余　錫　璣

報曉金鷄遍帝城。律諧聲々瑞雪橫。三更啼破溪關夢。午夜驚回邊塞情。韻有悠揚天自曙。音猶錯落月猶清。談女職守東窓裏。喚起群生樂太平。

○吳　士　茂

漏轉三更鼓未休。雄音叫遍大瀛洲。漫々豈厭司晨早。喔々應嫌撥夢悠。振耳權威誇五德。昂頭聲勢冠全球。知時不待東方白。高向人寰唱自由。

○張　寄　生、

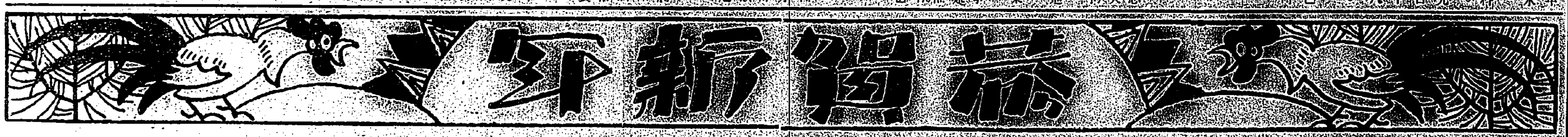
男兒報國事晨征。茅店更殘月尚明。起視匣中沖劍氣。初聞塒上鬪鷄聲。膠膠引頸催星落。糾糾雄心逐日升。驚夢曉啼追馬足。豈因函谷度關鳴。

○李　曉　樓

啓世清音入夢中。棲塒想像在扶桑。遙知西域將昏暗。已報東洋漏曙光。都鄙相聞聲遠近。乾坤一叫曉蒼茫。振衣亦勵英雄志。匪特司晨獨擅長。

○郭　阿　昌

冷覺紗窓露正濃。誰家鷄唱和從容。隔風叫落西山月。破曉催[illegible]。萬[illegible]瑞[illegible]喚醒人[illegible]夢[illegible]。



大日本製糖株式會社

資本金　五千百四十一萬六千六百圓

本社　東京府南葛飾郡砂町
東京出張所　東京市丸ノ內二丁目昭和ビルディング六階
臺灣支社　臺南州虎尾郡虎尾庄
朝鮮支店　平壤府船橋里
名古屋出張所　名古屋市西區下園町四丁目
大阪出張所　大阪市北區若松町
朝鮮支店京城出張所　京城府堅志洞
上海出張所　上海廣東路九號
爪哇派出員事務所　Gading Straat No.16 Ketanbang Soerabaja Java

社長　藤山雷太
臺灣支社理事　庵地佑吉

臺灣支社
虎尾製糖所　臺南州虎尾郡虎尾庄
斗六製糖所　臺南州斗六郡斗六街
北港製糖所　臺南州北港郡北港街
月眉製糖所　臺中州豐原郡內埔庄
烏日製糖所　臺中州大屯郡烏日庄

東京工場　東京府南葛飾郡砂町
大阪工場　大阪市東成區友淵町
大里工場　門司市大里
朝鮮工場　平壤府船橋里
爪哇工場　Gedaren Afd. Klaten Solo Java
大東島製糖所　沖繩縣島尻郡南大東島

雪辱の氣にもゆる鐵軍
明大の健棒にせまる
明大軍は陣容を一新して對戰
圓山原頭は觀衆で埋る

明大對鐵團の野球第二回戰も三日朝もカラリと晴れて日本晴れ[illegible]雲一つさへ見えない、午前九時の開場と同時にファンは球場へ入場して好い所に陣取つてゐる、午前十一時には既にスタンドも埋め盡され[illegible]雪崩れ込んだ觀衆は遠く外野スタンドから[illegible]をなしてスコアーボールドに至るまで[illegible]蛇の紋を作る、正午明大軍は旅館[illegible]を出て圓山へ向ひ球場に姿を現はして續いて鐵團選手も入場する、軈て兩軍のフリー・バッテングが始まる、明大は岡田監督、鐵團は[illegible]岡選手のノックでシートノックを終る、兩軍のラインアップが發表された、明大、鐵團共に敗けられない此の一戰だ、鐵團チームの編成が一新せられてゐる、明大は左打者[illegible]中村、赤木、中根を列ねて[illegible]を配し木村を起用し[illegible]木村を二壘に配し[illegible]を右翼に配して[illegible]、[illegible]を見せて[illegible]、天知鐵團監督は[illegible]、[illegible]の三羽鴉が球場に現はれる、明大軍は岡田監督を中心に[illegible]、午後一時三十八分天知球審はプレーボールを宣した、鐵團先攻、明大戶[illegible]投手はマウンドに上つた、鐵の第一打者才木はバッターボックスに入つた、明大の健棒は愈々冴りを見せ始め[illegible]赤木の右翼を衝くクリーンヒットに續いて[illegible]の二壘手布谷はワンボール後[illegible]直球を一振すれば右翼觀衆の本壘打となつて[illegible]ホームイン、[illegible]る許りの拍手を受ける、斯くして明大[illegible]の[illegible]ホームランは布谷選手によつて放たれた

明大軍英氣を草山に養ふ

明大對鐵團野球第二回戰は鐵團の[illegible]も及ばず十一對四にて明大の[illegible]に歸したが試合終了後選手は岩本部長、[illegible]理事、岡田監督と共に本社[illegible]の案内で草山[illegible]旅館に向つた、草山に英氣を養つた明大軍は明後[illegible]つかCB[illegible]つか赤木を投手に起用し萬全の策を施すことは必定である、鐵團[illegible]破れた後のファンの期待は此の一戰に繋がれてゐる

鐵の健鬪もおよばず
明大軍悠々再勝す
布谷君本壘打のトップを切る

試合經過

第一回（鐵）才木三球三振、三山右前に安打、本多二三壘後遊ゴロ[illegible]に好打上げたが濱野よくバックしてこれをつかむ、三山二盗を敢行したが惜しくもアウト（鐵零）

（明大）布谷（二壘）ボールの時盗進二壘に木村投手となる）三振、河野、木村遊ゴロ（鐵岡投手となる）三遊間を抜き野手ハンブルに二進したが中村三[illegible]松井遊[illegible]（兩

第二回（鐵）渡邊初球を遊飛し鈴木四球後尾[illegible]三振後川子第一球を中前に安打野手のハンブルに走者三壘を占め木村四球で鐵滿壘の好機を迎へたが永田惜しくも三振（明大）河野右翼にライナーを放つたが本多前進よくつかむ濱野遊失に出で赤木の右前安打に濱野三[illegible]の後左翼越に今春最初のホームランを[illegible]飛ばし[illegible]の如き[illegible]中村二飛に終る明大安打したが中村二[illegible]敵失と安打に四點を入れて斷然リードす（鐵零、明四）

第三回（鐵）才木左前安打三山も三壘上を拔き才木三壘に進み[illegible]

（明大）松井三遊間を拔き河野の三飛に松井封殺、濱野右前に安打赤木四球で明大又もや滿壘の好機を迎へ戶米の中前安打に[illegible]中根四球で濱野を押出し布谷三遊間を拔いて赤木も悠々生還濱野（鐵岡）一壘に退き渡邊投手となる）遊飛を野手ト[illegible]

第四回（鐵）田子左飛、鐵岡遊飛永田投飛（明大）河野中前安打に出で野手ハンブルに二進したが三浦投ゴロ赤木遊飛、戶米右飛（兩軍零）

第五回（鐵）（明大濱野、松井代）[illegible]久保田遊ゴロ入る）才木右飛三山四球木多の遊ゴロに三山封殺、渡邊左翼線上に打上げて安打となし本多一壘より一挙生還鈴木の左翼越の三壘打で還り鈴木ホームを狙つたが[illegible]尾三振（明大）鐵田子退き内山と代り才木右翼、本多中堅を守る）中根三壘前安打を左前に放ち二盗なつたが久保田一[illegible]中村左飛（鐵二、明零）

第六回（鐵）内山右飛[illegible]永田中飛（明大）遊ゴロ四球に出たが一壘牽制に刺さる

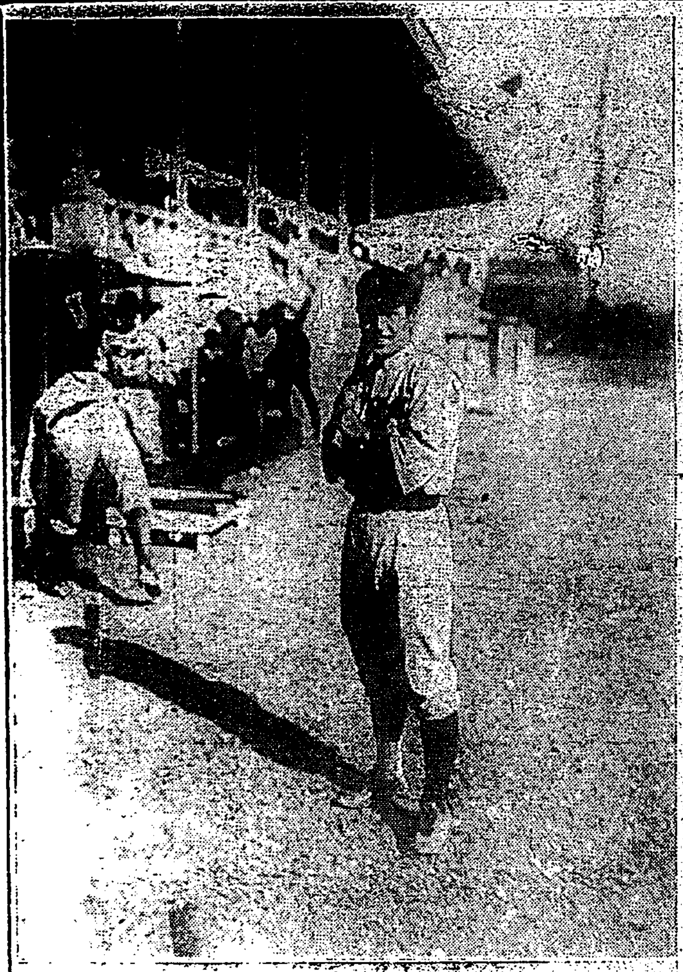
第七回（鐵）才木三飛三山一壘後方のファウルフライ、木多左翼に絶好のライナーを放つたが遊口開い[illegible]よく飛びついてシングルに收めるファインプレイ鐵ラッキーセブンも空しく好守に阻る（明大）赤木投飛戶米四球に出たが中根三振布谷遊飛（兩軍零）

第八回（鐵）[illegible]三振鈴木投飛遊飛（明大）久保田三飛中村四球に出たが松口の右飛にダブルプレイとなる（兩軍零）

第九回（鐵）八點リードされた最後の攻撃に入り内山三飛失に出で網岡は四球に續きダブルスチールなり鈴木三振後才木の二飛で内山生還したが三山中飛十一對四にて鐵最後の攻撃も空しく明大再勝す閉戰三時四十二分試合時間二時四分

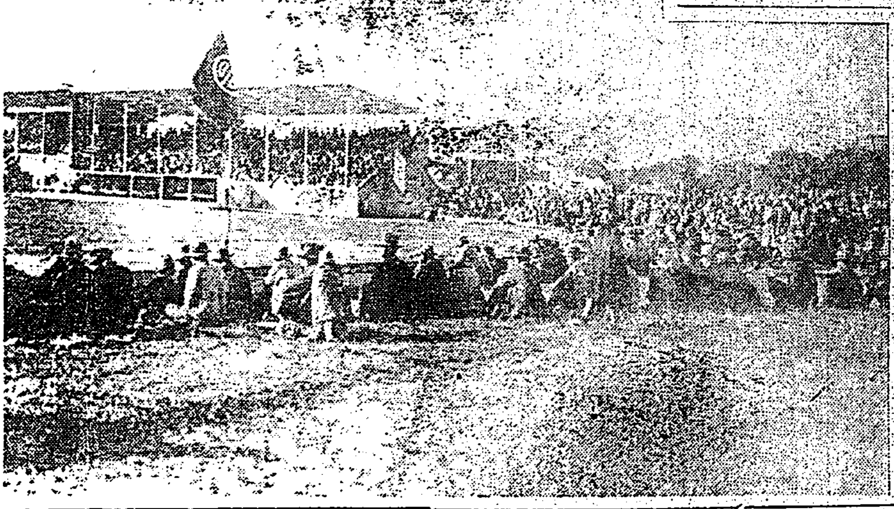
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	
鐵團（先）	0	0	1	0	2	0	0	0	1	4
明治	0	4	7	0	0	0	0	0	A	11A

		打數	得點	安打	打點	犧打	三振	四球	飛球	盗壘	刺殺	補殺	失策
（明大）													
4	布谷	5	2	3	0	1	0	0	0	2	1	1	1
6	濱野	3	1	2	0	0	0	0	0	2	0	3	1
	久保田	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
2	小村（保）	4	0	0	0	0	0	0	1	0	1	8	1
7	松井	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
9	西口	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
8	河野	4	1	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0
5	濱野	3	2	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0
	三稻	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
3	赤木	3	2	1	0	1	0	1	0	0	6	1	0
1	戶米	2	1	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0
97	中根	2	2	0	0	1	2	2	0	1	4	0	
	合計	32	11	10	1	3	4	7	5	3	27	17	
（先）鐵團													
2,9	才木	5	0	1	0	0	1	0	0	3	1	1	
5	三山	4	1	2	0	1	0	1	0	0	0	2	
9,8	本多	4	1	0	0	0	1	0	0	0	4	0	
1,3,1	渡邊	4	1	2	0	0	1	0	1	0	5	5	
2	鈴木	3	0	2	0	0	0	1	3	0	4	1	
4	後尾	4	0	0	0	0	2	0	0	1	2	1	
7	田子	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
	内山	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	
3,9	木村	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	
1,3	網岡	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	
6	永田	3	0	0	0	0	1	0	0	2	1	3	
PH	鈴木下	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	合計	31	4	8	0	3	7	4	7	6	24	15	



圓山の野球

（三日目）（上）は新春最初のホームランを出した明大布谷選手（下）は外野まで溢れた夥しき觀衆



ネット裏から

[illegible]

圓山雜景

三日の圓山は[illegible]然と晴れ渡つた日本晴れでシルビヤ山を中心に中央山脈がクッキリと鮮明な姿を現はしてゐる、島都の正月氣分は明大チーム來で、明快な、フレッシュな空氣を多分に供給された

三日のメインスタンドには木下長官を始めとして小栗内務、池田財務兩局長、後藤、伴野、鈴木の諸勅任官その他官民中の野球ファンに婦人連もかなり多く、野球氣分を濃はしてゐた

木下長官も來場
婦人連の顏も增す
三日のメーンスタンド

×　×

一回戰で惜敗した鐵の雪辱[illegible]るか否かが興味を煽つて午前十一時半にはスタンドは[illegible]の[illegible]員となる、遠くは臺中、新竹、臺南のファンの顏も多數見えた美人座、永樂、日活あたりの濃艶なファンの美しい姿がスタンドの方々に[illegible]三日のスタンド風景は先づ上乘の方、三四人の[illegible]ファンが外側に延を敷いて[illegible]の皮で[illegible]を作しらへ四合瓶を傾け乍ら、もつれた舌で「おーい、くろがねしツしツかりやれ」と喚く其の姿が紋付物にだから遊者なもの、右翼後の外[illegible]附近には子供連れの二人組

×　×

上を猛烈なゴロで拔き中堅才木君が僅かにハンブルした間に本壘を陥つて二壘を衝き美事なスライディングに二壘を得た快技は水際立つたプレーであつた

×　×

試合開始後、鐵[illegible]投手は投手と顏を見合せて微笑を交してゐたのは面白い情景であつた、第二回、鐵二死滿壘のとき永田君の三振は[illegible]つてゐたやうだ

×　×

投手の赤木君一壘を守つたが打者としても[illegible]あたりを見せ第三回に走者濱野君を一壘に置いて右翼へ放つたクリーンヒットは[illegible]な當りであつた

×　×

トップ打者——布谷君第一回一壘に中根君を走者に置いて第三球を會心のスヰングを見せて左翼[illegible]の本壘打を放つた、明大[illegible]後最初のホームランが出た、[illegible]も布谷君第一回最初の三振に[illegible]いてゐるだけに面白い對照である

×　×

鐵の田子君第四回に左飛で退いた[illegible]此の一打は大飛球で左翼の松井君が[illegible]み[illegible]で[illegible]を飛び越えた位の當りであつた

×　×

松井君サードコーチに立つた「さあ行け！出ろ出ろ！未だ未だ！三つに一つか打て！此の球面白いぞ！ゆつくり行け！[illegible]け[illegible]け！逃すな！行つてるぞ！「習にスラ[illegible]と次々に名句が飛んで出る、スタンドでは素晴らしい人氣だ、鐵[illegible]

×　×

木多君第七回二死後左翼に大飛球を放つたが松井君に代つた新人の[illegible]君[illegible]走又[illegible]走[illegible]ら球を[illegible]んで美技を演じて[illegible]の拍手を受けたが此の當りも實に大きく今少しで[illegible]の本壘打となる所であつた

×　×

[illegible]を[illegible]けてベンチに[illegible]た戶米投手が投手板を踏んだがアウトコーナーを衝く直球に威力を見せカーブと[illegible]球を交へて好い[illegible]投振を示した

×　×

パパさんは[illegible]し[illegible]いて[illegible]物、坊やは二人共其の上に[illegible]がりハツケヨイ、うららかな[illegible]である

×　×

三好老[illegible]日[illegible]一時間前から出かけ、[illegible]席に頑張つて何呉となく面倒を見てゐた、[illegible]の正雄君は明大出身二十[illegible]をものともせず、[illegible]やら世話やらで一人三[illegible]、此の親子どこかしら[illegible]田大[illegible]父子に似たやうであつた

×　×

ボールを拾ふ若き[illegible]、[illegible]として[illegible]つたものがある[illegible]選手の妙技を見て大分呑み込み、ボールの投球、キャッチ振り[illegible]に[illegible]に入つたもの、八回表（三時十分頃）[illegible]北から[illegible]七八[illegible]總じて[illegible]圓山球場に入つて來る、その[illegible]が球場全體を[illegible]ひ選手も觀[illegible]も眩いぶしに合つた[illegible]

×　×

の明大校歌[illegible]として多少ドラ聲しみた聲でオールドボーイ[illegible]

基隆の幸運者

本社基隆支局における[illegible]の特等、一等當籤者向つて右が特等小松君、左が一等[illegible]

明大應援席
女軍の聲援も手傳ひ
意氣頗る揚る

元旦の一戰に鐵團を一蹴し更に二日目の對CB戰で昨秋の[illegible]球界の覇者CBを[illegible]して[illegible]氣揚がれる明大應援席である[illegible]日對鐵團第二回戰は正午[illegible]時頃より三好[illegible]谷口[illegible]應援團指揮者らの指揮の下に應援戰[illegible]さおさ怠りがない[illegible]山おろしの南風は内野スタンドのファンにはいささかの寒氣を與へてゐるが春光を[illegible]正面に浴びたここではラムネの[illegible]を引いてゐる

「さあ、冷たい奴をのむんだ飲んで咽喉がさける迄歌ふんだぞ」！と意氣軒昂である、[illegible]色の小旗が前から後方へ[illegible]される、総々合唱[illegible]だ

「用意！」

命令一下赤[illegible]地の指揮團子が隊長の手によつて左右に上下にリズム的にふられた瞬間、Mの[illegible]小旗は雷にひらめき

「……白雲なびく駿河臺、眉秀でたる若人が……」

『ぜんざい』で元氣をつける
甘黨そろひの明大選手
戰前の長閑な風景

對鐵第二回戰を迎へた三日朝の明大軍は旅館[illegible]に悠々戰ひに臨むべく朝食を摂つてゐる、記者が[illegible]の二木、中村兩選手の室を訪れると山脇、[illegible]選手がトランプに打興じてゐる中村選手が「オーイ昨日のCB戰のスコアーは何點だつたかなあ」と[illegible]選手に聞きながら[illegible]二木[illegible]

選手は「寒いですね併し[illegible]の調子がいいですよ」といふ[illegible]なぜだ、盛んに「ぜんざい」のお代りだ、岡田監督の室を訪れると[illegible]「鐵が必勝を期してゐると同様、私の方の明大も必ず勝ちますよ、今日はメンバーがすつかり變りますよ」といふ

こんどこそ！CB軍緊張
けふ再び明大軍に相見ゆ
午後一時半より圓山球場

明大對CB野球第二回戰！第一回戰に於ては九對五CB最初リードし乍ら味方の失策は常にタイムリーとなつて破れたが、第二回戰こそはと選手一同屠蘇の香を餘所に非常に緊張してをり吉田主將も今度こそは何んとかせねばならないと餘り多くを語らない之に對する明大は破竹の勢をかつて再びCBを破るべくこれまた緊張してゐる

電車と自動車が衝突
十二名即死、四名負傷す
踏切を横切て側面からぶつつかる
奈良縣都跡村の慘事

【大阪三日發本社特電】三日午前十時四十分西大寺發奈良行大軌連絡急行車が奈良縣生駒郡都跡村第四號踏切にさしかかつた際奈良自動車株式會社所有奈良五八九號運轉手和田福五郎（二二）助手益谷ヤヱ子（一八）が洪龍寺より奈良行乘客を滿載して同所を横切らんとして側面衝突し自動車は大破運轉手及び助手乘客十名即死、負傷者四名を出した、負傷者は大阪赤十字病院に收容手當中であるが即死十名は取敢へず村役場に收容した、電車は幾分の遅延を見たのみ

廣陵大勝
和歌商脆くも敗る
臺南での野球戰

【臺南電話】臺南野球ファンが待ちに待つた廣陵中學對和歌山商業の野球大會は三日午後二時から臺南一中グラウンドに於て開催された快晴微風朗らかな天候に新春の喜びに浸り乍ら押し寄せる觀衆は兩スタンドにあふれる盛況で[illegible]るばかりの拍手に迎へられた兩軍の入場式ありそれより[illegible]會長の挨拶[illegible]市尹の始球式に同四十分吉村[illegible]宗正、三宅、隈川[illegible]の[illegible]の下に和商先攻で試合開始、[illegible]は終始[illegible]して攻守とも技倆の[illegible]を見せたがこの日和商[illegible]に一同振はずに終り[illegible]、[illegible]田相ついでプレートに立つたが廣陵の[illegible]の前に打ちまくられてミス續出し二十一A對七の大スコアで廣陵大勝、この日の試合は[illegible]見物人の期待を裏切つた[illegible]があつた、閉戰四時四十分

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	
廣陵	3	6	0	4	2	1	2	0	A	21A
和商（先）	0	0	0	0	0	0	1	1	5	7

高雄神社元始祭

【高雄電話】高雄神社では三日午前八時から元始祭を執行、[illegible]内務部長、今井市尹、[illegible]川[illegible]長氏子總代等が參列した

高雄の正月氣分

【高雄電話】三日の高雄市は[illegible]らずの好天氣で[illegible]市中は[illegible]て賑はひ午後は西子灣で中等學校の野球試合があつたが本年の正月三ケ日は[illegible]年和の[illegible]にすぎ[illegible]

天知、横澤兩氏
コーチ日程
體協關係者協議の上決定

[illegible]が招聘した天知、横澤兩[illegible]野球部[illegible]に對し野球コーチ希望の向は申出でられたいとの同協會からの希望に對し全島十ケ所から希望申出でがあつたので二日午後四時鐵道ホテルに加盟野球部長以下關係者、天知、横澤兩氏並及び本社よりも係員出席協議の結果次の如くコーチ日程を決定し北第一日たる臺北工業に對しては三日コーチを濟ました

△臺北工業三日午前九時半より十一時半迄△臺北商業四日午前九時半より十一時半迄△臺北中學五日[illegible]にての試合終了後一時間△屏東農林、同屏東學、五日高雄中學と同時同一場所にて△全臺南[illegible]七日臺南にての試合終了後一時間△嘉義農林、嘉義中學八日同所にての試合終了後一緒に一時間△臺北第二師範十日午前九時半より十一時半△全臺中[illegible]十一日同所にて試合終了後一時間

澎湖軟式野球

【馬公特電三日發】澎湖軟式野球大會は馬公小學校校庭、馬公公學校、城外球場の三ケ所に於て二日午前午後を通じ開催され三日も引續き行はれるが參加チーム二十三隊あり、三日準決勝、五日決勝戰を行ふ筈である

會事

▲あらまんだ吟社新年句會　五日午前十時から中[illegible]吟社と合同で[illegible]町大同會小務所で開く、新年

英、蘭語講習生補缺募集

講習期間　自一月六日至五月廿一日　自午後七時至[illegible]時（月水金）

講師　英語[illegible]山[illegible]市一、[illegible]田[illegible]介、[illegible]人、コーイ、石崎政治郎

授業料　一ケ月分金五圓前納ノ事

男女合セテ三十名補缺トシテ入會サセル希望者ハ至急申込マレタシ

臺灣總督府内　南洋協會臺灣支部

一週十三日間　かんかん蟲は唄ふ　危險信號

松竹蒲田作品　日活[illegible]　本日より世界館發行の特賞券を御利用下さい

世界館

◎オール・トーキー第二週の陣容

大ユニバーサル超特作　ウイリアム・ボイド大熱演　嵐

シネマ　サロン

◉初春に相應しい大衆的ナンセンス映畫◉

杉狂兒、小宮一晃　滑稽洒脫な競演

道中東海道篇全二十卷

グレート・スター

裸オンパレード◆一等の記

父嘉義農林學校敎諭中島祐清儀永々病氣の處二日午前十一時二十分死去致候間御通知に代へ此段謹告仕候

昭和七年一月四日

男　中島嘉雄

父渡邊榮吉儀[illegible]死去[illegible]

渡邊[illegible]　同[illegible]

會葬御禮[illegible]

特別廣告

尋ね人[illegible]

明けましてお芽出度う御座います

藝題替え左記の通りで名狂言揃ひで御座います故是非御來觀御待ち申上げ升

東京歌舞伎大一座

二の替り（一月四日より三日間）

三の替り（一月六日より三日間）

四の替り（一月八日より三日間）

於榮座

漢文臺灣日日新報

嘉村依田兩旅團先鋒隊
三日早朝錦州入城
第〇〇師團司令部赴錦州

三日溝幫子至急報。嘉村。依田兩旅團先鋒部隊。照豫定于三日早朝。錦州入城。第〇〇師團司令部。午前六時五十分。出發溝幫子。一路向錦州。

溝幫子各部隊
齊向錦州入城

三日溝幫子電。據溝幫子〇〇非公式發表。錦州前進大隊自早朝開始行動。一部裝甲列車及依田少將所率部隊。以列車由錦州入城。一方在双陽甸一泊之嘉村旅團。徒步錦州入城後。〇〇師團司令部。午前七時發溝幫子。至遲按正午入錦州。

嘉村旅團先鋒隊
錦州入城

二日奉天至急報。嘉村旅團先鋒第一、第二裝甲列車及騎兵一隊。今朝六時。從錦州入城。

嘉村團主力部隊
三日入錦州城

三日奉天至急電。在双陽甸一泊。整頓隊伍之嘉村旅團主力部隊。與依田旅團先鋒。同于三日黎明。開始行動午前七時波風堂々入錦州城。

鳳凰城匪賊大集團
謀破壞滿鐵線
電信電話線切斷不通

二日奉天電。二日午後八時五十分頃。安奉線鳳凰城驛東方。有大集團馬賊現來。謀破壞滿鐵線。同地守備隊。目下與之交戰中。匪賊有砲。人員二千。爲此奉天安東間電信電話線切斷不通。

本庄軍司令官
令後討伐下作戰令

二日奉天電。本庄軍司令官。就今後匪賊討伐。一日發左記作戰命令。

一、室師團長。指揮嘉村々非各旅團。實施遼河以西匪賊討伐。

一、多門師團長〇〇入城後。即撤退于遼河以東。全滅滿鐵本線。安奉線一帶匪賊。

某師團主力
按二日入城

二日奉天電。嘉村旅團本隊。二日朝出發奉天之室〇〇師團主力。整備隊伍豫定于二日夜至三日早朝入錦州城。

外國武官
歸任北平

一日北平電。錦州滯在中之英美法意各國武官。昨夜九時發同地。歸任北平。

安奉線高麗門
馬賊出現
切斷電信線

二日京城電。二日午後四時頃。安奉線高麗門附近馬賊團出現。電信電話線切斷。安東鐵道守備隊接報。急派兵員赴同地。鐵道似無被害。

板橋子
匪賊出現
高柳小隊應戰

二日奉天電。二日午後九時。板橋子有數十名匪賊出現。我高柳小隊急行。目下交戰中。三日朝將官隊十六名。自奉天派遣應援云。

室師團長下令
征伐溝幫子以西

二日奉天電。室第〇〇師團長。對麾下各部隊。下溝幫子以西出動命令。此等各部隊。二日朝七時五十分。發奉天向〇〇方面出動。

溝幫子錦州陷落
關東軍航空隊
將設飛行場于兩處

二日奉天電。溝幫子錦州陷落。關東軍航空隊。決定設飛行場于兩處。二日午後。地上勤務員五十名赴兩地。在〇〇〇之偵察〇隊。近將移駐于兩地云。

陳友仁氏
正式登衙
通告在外使節

二日南京電。陳友仁氏。于二日朝。爲外交部正式辦務而對各在外中國使節就任通電。

錦州軍全部
撤退錦州

二日北平電。據中國一邊消息。錦州軍至一日。全部撤退錦州。錦州西南百二十基羅之綏中。爲最前線。

錦州城內殘黨
三日早朝將掃蕩之

二日溝幫子電。嘉村旅團。屯于錦州東方三里地點双陽甸。又〇〇聯隊。駐錦州北方。三日早朝。將掃蕩錦州城內殘黨。〇〇師團司令部。三日午前七時。溝幫子出發。按正午錦州入城。

多門嘉村師旅團長
溝幫子驛重大磋商

二日溝幫子電。二日午前三時。多門〇師團長。在溝幫子驛頭。與嘉村旅團長會見。重大磋商。結局嘉村旅團長。引率殘留部隊。向石山站出發。三日未明。渡大凌河入錦州。

偵察機墜落不知去向
飛行機被敵兵燒却
兩搭乘者死體不明

二日奉天電。三十日午後三時半頃。平壤飛行隊小野田軍曹。小川伍長搭乘機。自北寧線敵情偵察後。即不知去向。我軍極力搜査中。一日午後四時。在北寧線高山子西南二里地點。被敵兵燒却。遺骸發見。兩勇士死體尚不明。

我軍偵察飛行
中國一邊逆宣傳
津田司令官發聲明

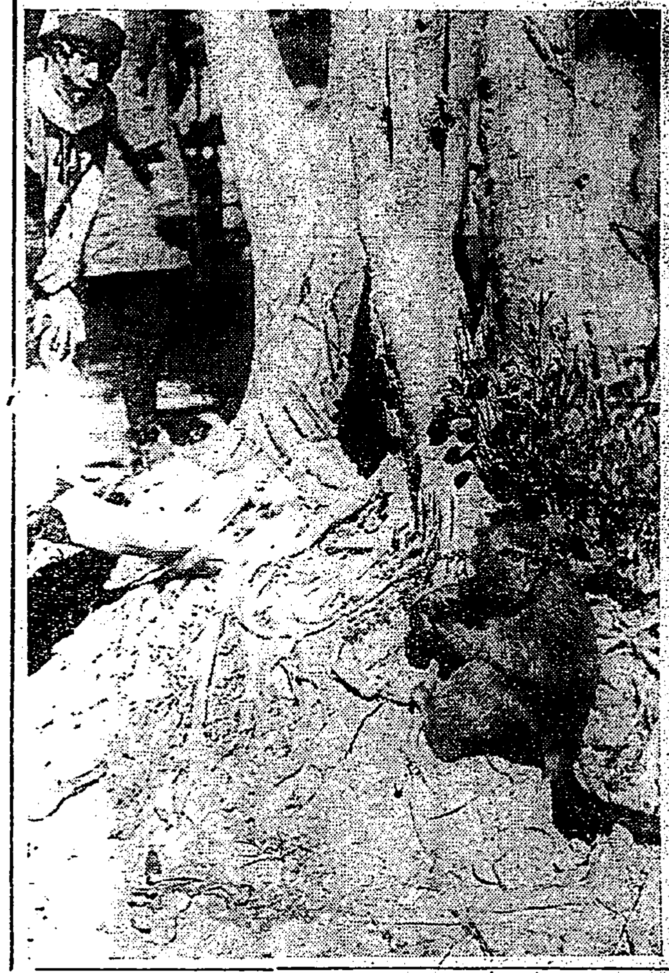
二日天津電。第二遣外艦隊數隻。現碇泊秦皇島。我艦所載飛機。中國一邊對偵察飛行。以爲將爆擊山海關。或爲破壞鐵道目的之逆宣傳。爲是津田司令官。發明除保護居留民外無他意。

盤山戰鬪華兵蒙害
戰死六百餘名
受傷六百四十二名

三日奉天電。錦州軍當撤退之際。爲阻止日本軍追擊。爆破各鐵橋。又據中國一邊所調查。盤山之戰鬪。中國兵戰死六百五十八。負傷六百四十二名。

臺北州下模範柑橘
每甲年產五萬斤
農家絕好副業

臺北州下。多產高墻桶柑。其柑苗來自廣東省潮州府。甘脆多漿。全無酸味。州農會現指定模範柑橘園五處。即新北郡五股庄更寮洲子尾陳能通氏之柑園七分餘及同庄南港子。海山郡板橋庄。七星郡北投。宜蘭郡宜蘭等。州農會配給燐酸、加里、豆粕調合肥。高雄斷縮社亦齎贈肥料。即陳能通氏每甲地栽種七百株。年產五萬斤。成績佳者三年便結實。誠絕好農家副業。自八年至十二年之間所產之柑最佳。活至二十餘年。年中四季除蟲施肥噴藥。不憚辛苦。故其園中柑樹聚齊。無枯死之樹。近因觀者頗由自動車公司。設柑橘園遊覽台于同人柑園。故自元旦以來內來人士往遊者。日數百名。三日起萬華貸座敷更設賣店于該園內。栽柑思想。得此鼓勵不少云。



高墻桶柑
栽培法
陳能通氏談

據臺北州農會指定模範柑橘園主新莊郡五股庄洲子尾陳能通氏。談桶柑栽培法如左。

▲地土　要乾燥離水。周圍整排子溝。根頭壅土以防暴風。

▲肥料　用豆粕、人肥、農會又給以燐酸、加里、豆粕之調合肥。春季柑採後及秋季白露節。各施一次。

▲噴藥　夏季用松脂、曹達調合藥水。秋季用石灰硫黃配合。以噴霧器噴之。秋季柑實若不噴之。柑皮便黑。且多酸味。

▲除蟲　四季宜驅蟲。以銅線鈎驅殺之。

胡孫小傳
（謝　生）

胡孫亦名王孫。產熱帶孔多。其產于閩粵川蜀尤繁。越山踰嶺攀擴樹杪。是其長技。復善變幻。人喜與盤旋。世有令名。戰國時楚王聞其名。召與俱遊。試其技。便捷無倫。楚王大喜。自是時々召見。相得甚懽。王竊有不稱意。胡氏戲舞。輒破愁爲笑。幾以非胡氏無以爲懽之概寵愛獨加。雖親若侵倫。不以爲薄忌妬之。胡氏恥徒爲食客。一日飄然竟去楚王嗒然。如失左右手。知其遁隱山林。大索不得。林木爲之殘。其見重如是迫乎晚唐。求仕昭宗。隨班而居。嘗就鎬闕。而性又闕。每事皆稱上意。龍顏大豫。賜以緋袍。且命親暱。號爲孫供奉。後朱全忠篡位。胡氏慨然以國士自居。恥豫讓之爲人。義不仕二主。全忠知其能強令至闕下待用。一日召見胡氏。欲試其能。使獻技。胡氏以爲時不可逃。即趨前起舞。初爲冕裳。繼露本來面目。跳踉叫囂。咆哮揚武。或上或下往來疾馳。飄若飛仙。而全忠復令樂官奏樂助勢。一時如千軍萬馬之齊發。一宮之內。須臾之間。煙塵陡起。無風作浪。與朝群々稱善。全忠亦大悅。然項莊舞劍。意在沛公。方其東奔西突。跳躍恣舞。衆眼迷朦之際。胡氏奮勇拔劍直前。目皆盡裂。欲效荊軻刺秦。惜乎不中。卒以是賈禍。其後子孫亦無意進取。枕山棲谷。不與世務。故厯世寂々無聞云胡孫一族。

野史氏曰。世固有一才一藝博取人間富貴者彼胡孫子。負有絕技。豈特一才一藝者比也。若其山踰澗。一何其捷也驟馳飛舞。一何其神也當其拔劍而起。目皆盡裂。一何其壯也。夫豈匹夫之勇而迅于一擊之勇者所可同日而語也。孟亦豫讓之流亞歟。然有武不文。而復不能苟合于世。故終不能盡其才。可不惜哉。其子孫亦不求聞達。遁跡山林不辱先人遺風。胡氏有後矣。

淡水三芝庄
風俗改良

淡水郡三芝庄曾庄長。及山田部長。鑑于時勢之推移。痛感從來喪葬祭祀及冠婚。有矯正必要。及倡設同庄風俗改良會。豫定于一月中。舉行發會式。

圓山野球團對戰
明大九CB五點
軍司令官以外多臨觀

圓山球場。一月二日。開始明治對CB團大戰。好球家之觀戰者。接踵而來至正午。觀覽席已無立錐餘地。是日眞崎軍司令官。偕小林副官臨席。平山知事及後藤、白勢、池田、三好、安保、竹內、後宮諸氏。川村秘書官、浦高級參謀等亦臨觀。而婦人席亦異常盛況。先是明大選手一行。由若妻旅館。分乘自動車。正午抵圓山球場。岡田監督先導入場。觀衆不期拍手觀迎明大軍。C B團選手。亦由內田監督導于球場。先行練習。次守備戰。結局得點。明大九點大勝。CB五點。奮戰不及。

臺南州下
畜牛增殖
經費約六千圓

臺南州下牛畜。年產十萬六千八百餘頭。占全國中首位。嘗內飼養數。近年督府雖移入洋牛。爲牛疫頻發。成績不佳。厥後努力施設。並交付獎勵金數年來。始獲良績。州當局。擬自七年度。設共同放牧場。獎勵牧草。及林間放牧。一方面於新化郡下阿里關地方。附近。撲殺野牛。豫期逐年增殖。經費五千八百九十八圓云。

鹿寮無賴
互鬪七續
頭目已被拘去

臺中州大甲郡沙鹿庄鹿寮。去年九月二十九日有多數無賴漢互鬪。傷及局外人若干名一案。是案懸至而今。自有三個月之久。日前雖拘同郡龍井庄田中央人紀金地。外多名到案取調。然聞爲證據不充分。僅以拘留二十九天。後放歸。又十二月二十八日。再拘一同郡龍井庄田中央人紀金選。徐到案。聞紀即爲田中派無賴漢之頭目。同時清水街人士。一部與有交誼者。聞金選被拘。即出爲奔走。有欲向當局保釋。一部當局。果應其保。待放金選出郡時。隨之至新廻街橋頭近附。復再拘之往郡柳澤司法主任。對此事件頗費苦心。去二十九日帶通譯洪有來氏。乃齊藤陳生二刑事。齊出張鹿寮現場。檢證當時行兇狀態。

本社全島各支局
讀者開運大福籤

本社恒例于正月二日。對各島讀者。舉行開運大福引。在本社之分。已略如所報。而全島各支局分。亦經同時舉行。概略如左

基隆支局　午前十時舉行。經半時間。特等爲日新町三丁目一二小松伸三郎所得。一等田寮町二四貸座敷業組合。二等福德町一丁目一五何基生。同義重町五丁目八大黑堂。三等張坤山外六名。至午後三時告完。

新竹支局　同時于新竹市本社取次店舉行。特等同市東門炎心魏。一等開門林木水。二等同北門中一大。二等同市公園野木信義。

臺南支局　同時舉行。午後三時告畢。特等當籤西門町一丁目林森記。一等木町二丁目蔡淑棟。同西門町二丁目河場。二等竹園町二丁目中村省治。同花園公學校。三等高砂町一丁目潘受三。同岡山町二丁目張吉。

高雄支局　同時舉行于高雄取次店。先有鐵道大瀨戶氏。當籤米俵。旋有山下町青山鈺力店之息常次當籤特等置時計。

臺北仁濟院
巡回診療
對州下各郡

臺北仁濟院。于新暦年末之十二月十六日至二十七日。對海山郡、新莊郡、七星郡管內。施行巡廻診療。對貧困者。無料施療。頗受一般好評。近復屆舊暦年末。爰訂來十日至三十一日。舉行第二次巡回診療。對前記以外各郡。及前回巡診未周之新莊郡管內。以次施行。各郡診療日程如左。

▲淡水郡管內　十日八里庄下罟子。十一日與北庄、石門庄老梅。十二日午後二時于前項。然後歸院。

▲基隆郡管內　[illegible]貢寮庄澳底。診療至午後二時歸院。

▲宜蘭郡管內　十七日頭圍庄大里簡。十八日北關庄東港。

▲羅東郡管內　十九日五結庄第子寮。二十日冬山庄順安。

▲蘇澳郡管內　二十一二兩日。于東澳診療。二十三日午後歸院。

▲文山郡管內　二十五日石碇庄石碇。二十六日午前中。于同處診療。午後坪林庄坪林。二十七日一日歸院。

▲新莊郡管內　二十八日林口庄大南灣。至三十一日午前中。在同處診療。然後歸院。

會　事

▲羅東街官民主催名刺交換會。去一日午前十時。開於羅東公會堂。是日晴天。約四百名。皆照定刻出席。陳街長述祝辭。交驩互酌。和氣藹々。十時半衆澄沼郡守起立。三唱天皇皇后兩陛下萬歲。一同恭和。乾杯而散。

▲元旦當日。蘇澳地方。天氣清明。蘇澳小公學校及馬賽大南澳兩公學校。各東澳北方澳兩分教場。各於午前九時。舉行四方拜其他官紳多數參列。十時公會堂。開名刺交換會。小辻庄長。述祝辭。菊池郡守。乘杯三呼萬歲。一同恭和。陶然而散。是日廢止廻禮。各商店休業。頗有新春景象。

▲中部施姓宗親會。訂來一月四日。午後一時起。假臺中聚英樓。開第七回宗親總會。會費一圓。欲參加者。可向錦町永和齋施麟柏氏處聲明。

人　事

▲萬華吳榮卿氏。客臘二十九日午後五時頃。病歿於臺北醫院。享年三十有六。翌日午後五時頃。於三橋町火葬場。舉行木葬儀。且擇日執行。氏國校師範部出身者。自公學校。退就臺北茶商公會

▲宮稻江黃炎明氏令正林瑞大。客臘三十日午前一時。病歿寓所。享年四十有一。訂來七日正午。出殯預十五份公共墓地。

▲文山郡景美公學校訓導謝森林氏令堂謝母。客臘下旬。病歿於昔瑞之家。享壽九十有四。訂來二十五日早朝。執行葬儀。

▲高雄士林國彥氏。客臘自臺北醫院。退於臺南市池町。以產科婦人科開業。

溪流謄本
內務局爲調製
實施河岸測量

督府內務局。爲調製溪流謄本。自新春一月五日。至三月五日。按兩箇月間。派測量班員。出差至於竹東郡下竹東。橫山兩庄。在頭前溪。並同溪支流。油羅溪等之河岸。實施土地測量。各股新竹州知事。已接到通牒。經于二十七日。公告於州民咸知云。

翰墨因緣

▲嘉義鷗社月課。秋郊試馬七律不拘韻。截收後。得稿無幾。茲再展限云。

曉鷄聲

〇　朱　俊　英

報曉雞鳴歲序更。壬申元旦兆昇平。五更霜淑音初奏。萬木陰濃露未晴。北土聞聲鷹起舞。賢妃戒旦觸心驚。悠然一唱千禽喚。石火電光孰與京。

〇　林　子　郎

月落星稀天未明。忽聞喔喔聽擣鳴。司晨匹類知多少。而且聲音惻獨清。喔々幾回茅店夢。密々喚起玉關情。祖生聽此揚鞭去。搭掃胡氛奏太平。

〇　沈　梅　君

喔々聲高宣異仁。錦雞初

週好音頭。長庚明月扶曉。瑞靄祥雲遶島新。店五更浮霜。江山一唱轉洪鈞。喚醒大夢三千草木欣回萬里春。

〇　陳　昌　宏

金雞喔々五更揚。驚醒曠野大荒。頃刻而鳴然北。如時則唱照扶桑。其鳴々同無替。羨彼膠巧轉爲。標秒初音殊通煥然齊頌樂昇平。

〇　蘇　鐵　瀾

鼓翅喔々破夢驚。司晨戶報昇平。諸門瑞氣光逼。四海恩波喚色清。志學重欣新歲。開情[illegible]

〇　徐　清　淼

世事皆々報唱明。[illegible]東方既色映窗明。[illegible]々破夢鳴。響度秋林殘月白。韶隨流水曉風清。[illegible]雄姿劍舞無愁[illegible]覺有情。恰似原嘗朝王國數聲啼唱慶昇平。

〇　吳　大　山

月落楓橋天未明。遙聞驛鳥鷄雛鳴。數聲啼混乾坤曉。疊唱韻和四海清。管斷回茅店夢。任他喚起玉關情。亦知五德人欣爽到處傳音頌太平。

〇　曾　彭　龍

朱冠紺頂大文章。喔々和鳴盛世光。唱徹一聲天地曉。春回萬象國家昌。司晨慶喚千官肅。元旦先朝萬歲康。賴國來儀金闕日三呼長報聖恩長。

〇　陳　　南

一聲唱徹萬人驚。瑞靄祥光滿帝城。喔々和鳴金陛響。膠々階雅玉珂鳴。衣裳頭倒迎仙喚。汝字文明報汝唳。甚願聞時群起舞君臣同治勵精誠。

〇　高　文　瀾

喔々翰音獨引吭。一鳴提相叫醒黃粱。啼殘午夢驚除韶。喚徹頻催放曙光。百有英雄聞起舞。遙教將史學精詳。花冠煥爛朝陽更唱兆昇平達帝鄉。

OOHY SOAP
王妃化粧石鹸
あなたのプライドの爲に
あなたの御滿足の爲に
Let thy Woohy
No10